

IHコンロを新施設へ

松浦市市民福祉総合プラザの完成に伴い、市は4月30日、IHコンロ8台を寄贈した九州電力株式会社長崎営業センターに感謝状を贈呈しました。

感謝状を受け取った平戸営業所の山下剛所長は、「松浦市民の皆様へIHコンロの良さを知ってもらい、機会があれば、IHコンロを使った料理教室を開催したい」と話しました。寄贈されたIHコンロは、主に保健センター内の調理実習室で使用される予定です。



新事務所、荷捌き所が竣工

新松浦漁協(志水正司組合長)新星鹿支所事務所が、建て替え工事を終え4月24日に竣工式を迎えました。

老朽化していた事務所棟は、2階建てから平屋建てとなり、安全性と利便性の向上が図られました。荷捌き所は魚の水揚げや選別作業に使用され、新設された調理室は、女性部活動の拠点にもなると期待されます。志水組合長は、「新松浦漁協15周年に新たな施設が完成し嬉しい。漁業活動の拠点にふさわしい造りになっている。この施設が水産振興の鑑となり、希望の光となることを期待したい」と抱負を述べました。



アジフライ貯金箱が話題に！

梶川 悠斗くん(御厨小3年)の作品「アジフライ貯金箱」が、第44回ゆうちょアイデア貯金箱コンクールにおいて「すてきなデザイン・アイデア賞」を受賞し、全国7か所で展示されました。

県内では、全国から寄せられた約72万点の中から同賞に7作品が選定されました。

受賞した悠斗くんは「貯金箱のデザインが決められず難しかったです。入賞作品に選ばれ嬉しかったです」と話してくれました。



給食にキンショーマロン！

学校再開となった5月11日と12日、松浦市内の小中学校の給食に初めてキンショーマロンがふるまわれました。

5月の連休中に予定していた「キンショーマロンまつり」の開催が見送られたため、松浦メロン部会(辻邦彦会長)が、生産者が丹精込めて育てたメロンを市内の小中学生に味わってもらおうと企画。子どもたちは、「甘い」、「初めて食べた」、「おいしい」と、旬のキンショーマロンを味わいました。



マスク 2,000 枚を寄贈

堤電気株式会社（堤浩範代表取締役・佐賀県伊万里市）は5月7日、松浦市に2,000枚のサージカルマスクを寄贈しました。

電気工事の際に関わった薬局を通じ、マスクを入手。この日は堤代表取締役と、宮本亮二松浦営業所長が来庁し、「なかなか手に入らず大変でした。ぜひ使っていただきたいです」と述べられました。



地域のためにマスクを寄付 消防本部に感染予防ズボンも寄付

株式会社エミネントスラックス（前田周二代表取締役社長）は、新型コロナウイルスの影響によるマスク不足を受け、昼休みや就業後の時間にミシンを社員に開放し布製マスクを作成しています。消防本部や警察署、市内の保育施設、医療機関へ作成したマスクと、消防本部には感染予防ズボンも寄付しました。松浦工場の黒木美代子さんは「地域に貢献したいと思い、一日200枚を目標にマスクを縫っています。各自で着用するマスクもカラフルで、社内が明るくなりました」と話していました。



▲寄付された感染予防ズボン



▲作成されたマスク

幼児用木製遊具を寄贈～支えあえる地域づくりのために～

みくりや駅前元気カフェ（中山誠基代表）の会員と松浦高校の生徒は5月8日、市民福祉総合プラザで活用してもらうために協働で製作した幼児用の木製遊具を松浦市に寄贈しました。

高齢者の集いの場として活躍する同会員が、多くの世代がふれあえる交流の場を創りたいとの思いから幼児用木製遊具の製作を考案していました。また、松浦高校の生徒は地域課題解決プログラム「まつナビ」の一環で、世代間の交流が希薄になっているなど課題を受けとめ、「ふれあいの場」を設けることを提案。高齢者と若者の思いが重なり、建設業を営む奥野伸児さんの指導を受けながら木製遊具の協働製作を行いました。活動に参加した松永実紅さん（3年）は、「木を切ったことが無く、高齢者の皆さんと作業することが楽しかった。小さい子どもが楽しめて、世代を超えて人と人が繋がる場所になってほしいです」と話しました。

